

緑のセンターだより

No.214

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行: 令和7年6月1日

講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日午前9時から、お電話または直接の受付をいたします)

講習会の案内は、広報旭川市民「あさひばし」に掲載します

「低花木類を上手に育てる講座」(アジサイ、アナベル・ラベンダー) ~苗木はすべて持ち帰り

とき 令和7年6月8日(日)、7月6日(日) (全2回出席が条件です)

講師 緑のセンター相談員

※5月20日(月)~講座受付中(参加希望の方は、お問合せください)

午後1時30分~3時30分 定員20名 参加費2,500円

「神楽岡公園 夏の自然観察会」~夏の園内を散策しよう

とき 令和7年8月11日(月) 午後1時30分~3時30分 定員15名 参加費 無料

講師 森ん歩の会 阿久津 弘明さん、佐藤 まゆみさん

緑のセンターまつり2025「自然の潤いに満ちた生活」を、テーマにした楽しいイベントです♪

6月29日(日) 午前10時~午後4時 神楽岡公園 緑のセンター内及び屋外周辺

🌿 屋外イベントやアクティビティ

- ・自然生態観察公園区域でスタンプラリー
- ・みんなで植え込もうプランターディスプレイ
- ・ステージイベント・丸太切り大会
- ・園路沿いに空間展示した写真たち
- ・スラックライン体験・子ども遊び広場ほか

🌸 屋内イベント

- ・寄せ植え講習会(午前と午後の部)事前申し込み
- ・緑のセンター温室で「くつろぎカフェ」
- ・この植物なあ〜に?
(写真をヒントに、温室内植物を探そう)
- ・写真展示会 星と動植物

🌻 屋外のイベントブースとして「花と緑の展示」や「園芸市」のほか、飲食の販売も行います

参加協力団体: 赤平オーキッド、旭川農業高等学校、旭川ミニ盆栽愛好会、
グリーンテックス株式会社、プラタナス商店会

花フェスタ旭川2025

2025年6月18日(水)~22日(日) 午前10時~午後5時(最終日午後4時終了)

科学館となりのレンガ棟 CoCoDe(ココデ) 旭川市宮前1条3丁目 旭川市民活動交流センター

【休館日のお知らせ】

4月~10月は、第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

〈我が家の庭づくり〉 室内の植物を外に出す方法

1. 室内で育てている植物を夏場に外で育てるメリット！

- ① 日当たりを好む植物(多肉植物・野菜苗・花木類・鉢花類)は戸外で育てることで、開花促進・徒長防止・生育促進等の効果が得られる。
- ② 植物を自然環境に馴らすことで抵抗力が付き丈夫に育つ事ができる。
- ③ 栽培管理(灌水・施肥・植え替え等)がしやすくなる。

2. 室内の植物を外に出すときの注意点

- ① **日当たり**～室内の植物をいきなり外の直射日光に当てると葉焼けをおこしてしまいます。最初は直射日光が当たらないように遮光(寒冷紗・不織布)で覆う、曇りの日に出す、木陰に置くなどして徐々に馴らしていく必要があります。(我が家の多肉植物は1週間程パオパオシートを掛けて馴らします)
- ② **温度**～暖かい室内から寒い戸外に出すと生育不良を引き起こす事が多いため焦る事無く、植物の生育適温に近づいた時がベストタイミングと言える。(秋に取り込むタイミングは反対に生育適温より下回った時がベスト)
- ③ **病害虫対策**～室内でぬくぬく育った植物は病害虫に対する抵抗力が弱いので周辺の環境を見て予防に努め、早期発見・早期防除を心がけましょう。

3. 戸外に出してはいけない植物

- ・斑入りが強い観葉植物～葉緑素が少ないので葉焼けをおこしやすい。
- ・葉に微毛がある植物～微毛に付いた水滴が日光に当たると葉が焼ける。
- ・寒いのが苦手な植物～旭川の高温期は一時なので無理に出す必要はない。

(注: 我が家でも出窓の向きや棚の高さを考え必要最低限で外出しています)



徒長し始めたミニトマト



遮光資材 (ダイオネット)



不織布 (パオパオシート)

今年 注意する病害虫 (北海道病害虫防除所発表から抜粋)

1: 「たまねぎ」の軟腐病(病気)

本病は6月下旬から7月上旬に曇雨天が続いたり、7～8月が高温多雨の時に発生しやすくなります。本年は暖候期(6月～8月)の降水量が平年並と予報されているものの、気温は平年より高いと予報されていることから、まとまった降雨があった場合には発生が多くなるおそれがあります。

2: 「たまねぎ」のネギアザミウマ(害虫)

ネギアザミウマは、高温で早発・多発しやすく、少雨で多発が助長されます。本年は暖候期(6月～8月)の気温が平年より高く、降水量は平年並と予報されているため、発生期は早く、発生量がやや多くなるおそれがあり注意が必要です。

3: だいこん・はくさい・ブロッコリーなどの「あぶらな科野菜」のコナガ(害虫)

コナガは道内での越冬が困難なため、春季に道外から飛来する個体群が発生源となります。本年は春季の気温がやや高いと予報されていることから、第1回目の幼虫発生がやや早くなると予想されます。また、暖候期(6月～8月)の気温が平年より高く、降水量は平年並と予報されているため、密度が高まるおそれがあり注意が必要です。

4: 「りんご」の腐らん病(病気)

腐らん病は発病部位から病原菌の胞子が分散し、感染源となります。近年、発生が多い状況が続いていることから感染源も多いと推測され、本病の発生量は平年より「多い」と予想されます。

＜ 季節の鉢花を楽しむ ＞



ジャーマンアイリス

ジャーマンアイリスは、アヤメ科アヤメ属の多年草で、膨大な園芸品種数に、多彩な花色や覆輪などもあることから別名「レインボーフラワー」と呼ばれています。また、夏が涼しく、梅雨のない北海道で育てるのに適した植物と言われ、旭川での花の見ごろは5月下旬～6月上旬頃になります。栽培は地植えでも鉢植えでも可能です。しかし、多湿環境と酸性土壌を嫌うので注意が必要です。

栽培管理の勘所

- 1、植え場所** 地植えの場合は日当たりが良く、乾いていて水はけの良い場所。鉢植えの用土は中性～アルカリ性を好むので、排水性の良い用土1に対して3ほど苦土石灰を混ぜておく。
- 2、水やり** 庭植えの場合は高温が続いた日以外は特に水やりしなくても問題ない。鉢植えの場合は表土が乾いてから鉢底から水が出るまでたっぷり与え、受け皿の水は捨てる。
- 3、施肥** 花後に窒素成分の少ない肥料を少量与える程度で、日常的には与えない。
- 4、株分け** 植えっぱなしでは「いや地」現象(同一作物の連作によって病害虫の多発や作物の生育不良が起きる事)などによって、丈が短くなり、花も少なくなるので3～4年に一回は株分けして植え替える。時期は花後または初秋の9月ごろ。葉は20cmほどで切り、ショウガのような根茎のくびれた部分で分け、切り口が乾いてから根茎が見え隠れする程度の浅植えにする。土に少しでも湿り気があれば植え付け時の水やりは必要ない。鉢植えにする場合は7号以上の鉢を用意する。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育状況	休眠期			開花期			生育期			休眠期		
植え付け						植え付け						
水やり						露地植えは特に水やり不要 鉢植えは表土が乾いたらたっぷり						
施肥						チッ素分の少ないものを少量						
作業						株分け			株分け			

＜ 展示室の植物 (120) ＞ 多肉植物 ハオルチア「玉 扇」

学名 Asphodeloideae Haworthia ツルボラン科 ハオルチア属

ハオルチアは、葉の先にできる透明な部分(窓と呼ぶ)が宝石のように美しいことから「ジュエルプランツ」とも呼ばれ、古くから人気があります。原産地は南アフリカ。花言葉は「小さな愛」ですが、花言葉とは裏腹に、レアで希少な品種が盗難にあったり、インターネット上では、品種を偽ったりして売買



されているものも少なくないようです。「玉扇」は春と秋の穏やかな気候のときだけ生長して、夏と冬は休眠するので「春秋型」の多肉植物に分類されています。

多肉植物には「春秋型」以外に、夏型種、冬型種などもあり、それぞれ生育パターンも一般の草花とは違うことから、見た目の可愛さだけではなく、その種類や性質を知って、購入・管理されることが大切です。

園芸用語の解説

園芸でよく使われる専門用語や名称などについて、初心者の方々にもわかりやすく解説します。表記は順不同です。

【摘心】てきしん

枝や茎の先端部、つまり芯を摘むこと。枝分かれをさせたり、徒長を止めたり、大きくなるのを抑えたいときに行います。「ピンチ」ともいいます。



【摘蕾】てきらい

蕾のうちに摘んでしまうことです。小さな苗や弱った株をおう盛に育てるためにすべての蕾を摘み取る場合と、花や果実を大きくするためにいくつかの蕾を残して摘み取る場合があります。

【混合土】こんごうど、こんごうつち

鉢栽培やプランター栽培などに用います。数種類の用土を混合して、保水性、排水性、+保肥力を高め、土を肥沃にするため、優れた用土です。緑のセンターでは、赤玉土（中粒）60%、腐葉土30%、火山礫10%の混合土を多くの鉢花に使用しています。

【葯】やく

雄しべの先端についている花粉の入っている部分。「花粉袋」と思っ
てよいでしょう。



【花粉】かふん

雄しべの先端の葯の中にある黄色

い粉状のもののこと。雌しべの柱頭に花粉がつくとタネができます。

【子房】しばう

雌しべの一部です。雌しべの先についた花粉が花柱の内部を通して子房に入り、ここで受精して、タネができます。

【根茎】こんけい

地中にある茎。地中で横に伸びる地下茎が肥大して茎部の貯蔵器官になったものです。カンナ、ハス、耐寒性スイレンなど。

【塊茎】かいけい

茎が大きくなり、生育に必要な養分の貯蔵器官となったもの。チューリップなどに見られる薄くはがれる皮膜をもっていないのが特徴です。シクラメンなど。

【塊根】かいこん

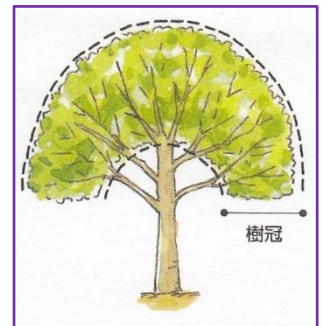
球根の一種で、ダリアなどのように養分を蓄える器官として根が大きく肥大したもの。

【樹冠】じゅかん

樹木の、葉が茂っている部分をいいます。

【主幹】しゅかん

木の幹のこと。すべての枝のなかで一番太い部分です。



【主枝】しゅし

一番太い幹（主幹）から直接枝分かれし、木の骨格となる枝のことです。そこから出る枝を「側枝」といいます。

【半日陰】はんひかげ

直射日光を受けるのではなく、また、日光を全く受けないのでもない、日が当たりながらも多少日陰になる状態をいいます。かなりあいまいな光の強さの表現ですが、木もれ日や寒冷紗を通した日光がそれにあたります。

【根張り】ねはり

根の張り具合のこと。根が十分に育っている状態を「根張りがよい」といいます。

【葉腋】ようえき

葉のつけ根のこと。ここから枝や芽が出ることが多いので、「わき芽」ともいいます。

(参考・引用文献：NHK趣味の園芸 園芸入門ほか)